

別表第1（第5条関係）

事業事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事業名	田沢湖図書館資料購入費						
担当係名	田沢湖図書館	課	-		係	作成者	船山 睦
総合計画での 位置づけ	施策の大綱	明日の担う人材を育む教育文化のまち					総合計画の ページ
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備					
	主要施策	社会教育施設の充実					96
予算費目	一般	会計	10 款	教育費	5 項	社会教育費	3 目 図書館費
事業期間	平成	年度 ~ 平成		年度	新規／継続の区分		継続
性質区分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理						
根拠法令等	図書館法、図書館法施行令、図書館法施行規則						
事務区分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務						
運営方法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助						

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民(市外者含む)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	利用者のニーズにあわせた環境づくり(配置等)、他館とのネットワークを活用して地域に密着した図書館を目指したい。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	文化・教養・調査・娯楽等に役立つ資料等の収集および利用者の日常生活に役立つ図書の収集を図りたい。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	購入冊数	目標	冊	900	900	900	
			実績	冊	989	995	919	
			達成度	%	109.9%	110.6%	102.1%	
	成果指標	貸出冊数	目標	冊	14,000	14,000	14,000	
			実績	冊	14,697	14,040	14,650	
			達成度	%	105.0%	100.3%	104.6%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				2,430	2,233	2,198	
	人 件 費 (B)		—		23,559	24,213	7,925	
	職 員 数	—		3.00	3.00	1.00		
		職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925
	(A) + (B) 投下コスト				25,989	26,446	10,123	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				25,989	26,446	10,123
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		26,278	26,579	11,015
市民1人当たりのコスト(円)		—		815	841	326		

【事務事業の今までの成果】

リクエストのあったものは、可能な限り購入し利用者のサービスに努めている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県立図書館は利用率の向上を目指して、各市町村立図書館の支援を行っている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	開館時間の延長。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	地元書店が事実上休止状態の中で市民の文化的要求に応えるため。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

早期、図書館システムの導入により、1枚のカード（貸出券）で角館・田沢湖両図書館での資料の借用を図り、両図書館がそれぞれの役割を分担しながらレファレンスを含む住民サービスに努める。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	一定の利用水準を維持してきており、引き続き利用者のニーズに沿った効果的な事業運営を念頭に継続すべきと考えます。

一次評価診断図

